

第73回南九州美術展

展示期間：令和8年2月11日（水）～19日（木）

会場：日置市中央公民館 中ホール・ロビー

授賞式日程：令和8年2月14日（土）午後2時～

授賞式場所：日置市中央公民館 大会議室

主催：南九州美術展運営協議会 日置市 日置市教育委員会

主管：南九州美術展運営実行委員会

後援：鹿児島県教育委員会 鹿児島県美育協会 鹿児島県市長会

鹿児島県市議会議長会 南日本新聞社 MBC南日本放送

KTS鹿児島テレビ KKB鹿児島放送 KYT鹿児島読売テレビ

日置市校長会 一水会 日置市伊集院地域特別支援教育育成会

日置市文化協会 日置市PTA連絡協議会 日置市社会福祉協議会

南日本書道会 小倉博文堂

協賛：(株)サクラクレパス 日置市商工会

ごあいさつ

本年度で第73回を迎えた本美術展は、昭和26年に本市（旧伊集院町）出身の故門松周一氏が「妙円寺詣り」の武徳だけでなく情操を兼ね備えた青少年教育を、との願いから同士同友に呼びかけ、美術同好会を結成、その2年後の昭和28年に、総合美術展としてスタートしたのが始まりです。おかげさまで、毎年県内の方々より多くの作品が寄せられています。

今後とも、ますますの隆盛が図られますよう、皆様方の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

南九州美術展運営協議会

会長 永山 由高

審査員

【美術の部】

鹿児島大学教育学部教授	小江 和樹	先生
幼保連携型認定こども園太陽の子どもたち施設長	樺木 彰史	先生
鹿児島県立蒲生高等学校非常勤講師	前村 卓巨	先生
薩摩川内市立川内北中学校教諭	石原 琢二郎	先生

【書道の部】

県立伊集院高等学校教諭	成田 真理子	先生
日置市生涯学習講座講師	永野 弘行	先生

審査評

南九州美術展は、県内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の園児・児童・生徒を対象とした作品展である。ただし、書道の部については日置市内の小・中学校対象である。

今回は、描画、版画、デザインの美術作品 2,985点と硬筆・書写作品 992点の応募があった。

作品審査会は、令和8年1月23日（金）、美術の部はフラゴラアリーナ日置（日置市伊集院総合体育館）で、書道の部は日置市中央公民館において、上記審査員の先生方に審査を依頼し、実施した。

審査講評を今後の参考にお伝えする。

《美術の部》

今回は、描画 1,715 点、版画 971 点、デザイン 130 点、ひおきの部 169 点の計 2,985 点の作品が出品された。

審査の結果、特別賞 48 点 特選 187 点 入選 330 点が選ばれた。

※ 「○」は良い点、「●」は改善点等を評しております。

I 描 画

1 幼稚園・保育園

- 生活の中での出来事や家族や友だちのこと、好きな生き物、想像したことなど、驚きや感動などをその子らしい表現方で表現した楽しい作品が多く見られた。
- 素直な線描や色彩豊かな作品、子どもの想いに沿った幼児らしい生き生きとした作品が多く見られた。
- 描き込みすぎた作品が多かったので、幼児らしい表現を大切にしてほしい。また、背景は特に塗り込む必要はなく、幼児が描きたかったことがよくわかるように、余白のよさを生かした表現も大切にしてほしい。
- 似ている書き方や構図や彩色の作品が見られた。幼児の一人一人の思いを大切にしてほしい。
- 物の形にこだわりすぎており、感じたことを絵に描く気持ちを大切にしてほしい。
- 幼児が描きたいものをよく引き出してほしい。
- 色画用紙は特に色の付けすぎは色が濁ってしまうので気を付けてほしい。

2 小学校 低学年

- 児童の思いが込められた作品や想像したことを自由に表現した低学年らしい作品が多く見応えがあった。
- 線描を中心に行きたいことを児童なりにとらえた色彩豊かな表現と線の勢いのある作品が多く見られた。
- 幼稚園や保育園で経験した表現技法を生かした作品も多く見られた。
- 授業の単元からの作品で想像力を働かせたダイナミックな作品があった。
- 全体的に書き込みがされた作品が多く感じた。
- 描きたいものをストレートに表現させてほしい。
- 画面からはみ出す作品に力強さがあるが、台紙が弱いものがあったので、しっかりとした用紙を用いて作品を大切にしてほしい。

3 小学校 中学年

- 学校行事や郷土の伝統行事、風景や生活の中での出来事や物語などを題材として、想像を広げた作品、形の面白い作品、鮮やかな色遣いや構図が工夫された作品が多く見られた。
- 線の強弱や変化を生かした元気のある動きや中心となるものと他のものを区別した表現など、児童が工夫し取り組む様子がうかがえる作品が多くかった。
- 精神的な成長を感じることができる作品が増えてきた。
- 細かなところまでよく見て感じたことや気付いたことを丁寧に表現している作品が見られた。
- 表現したいことがよく表れるような彩色や効果的な構図の工夫に取り組ませてほしい。

4 小学校 高学年

- 細かなところまでよく観察し、見たものをより写実的に表現しようという意欲に溢れた作品が多く、モチーフやテーマに広がりが見られ、日々の生活の様子がよく表現されていた。
- 広がりや奥行きを表すために対象をしっかりと捉え、構図や視点の工夫など高学年らしく、面白い視点の作品や構図・アングルの楽しい作品が見られた。
- 混色や重色、ぼかしや補色による色の組み合わせの工夫など、発想を大切にしながら表現に取り組んだ作品と時間をかけ描いたことがわかる作品などが見られた。
- 写真を写し取るだけの表現になり、感動や思いが表れにくい作品が見られた。
- 対象をそのまま描くだけでなく、より観察して対象から受けた感じや質感・濃淡・自分の思いなどを取り入れ、主題を生かす作品づくりに取り組んでほしい。

5 中学生

- 自分なりの主題を明確にし、それをしっかりと形にしている作品が多く見られた。
- 彩色を工夫した表現や時間をかけた描写など、観察力や描写力が充分に発揮された作品が見られた。
- 表現の多様性が見られ、楽しく見られた。
- 写真を活用し視点を工夫している作品が多いが、描きたいと感じた画題を選び、対象から受けた印象を線・色彩・構図などを工夫した作品づくりに十分生かしてほしい。

6 高校生

- 高校生らしい考え方、対象の捉え方、表現の仕方を工夫した作品が見られた。
- 自分自身の内面を自分らしく表現した作品や対象に対する思いが十分表された作品が見られた。
- 高美展などと時期が重なるため募集案内、出品規定や搬入方法などを工夫し、作品が増えることが期待される。

7 特別支援学校・特別支援学級

- 発達段階に関係なく、作者の思いを素直に絵に表す作品が多く見られた。
- 日々の生活の中から題材を選び、喜びのある生き生きとした作品や将来の夢や希望を素直に表現した力強い個性ある作品が多く見られた。

II 版画

- 楽しんで版画に取り組んでいる様子が感じられる作品が見られた。
- 体の動きや対象の象徴を版に表す工夫が見られた。
- 紙版画・カラー版画・単色木版画・一版多色版画など様々な版による表現の特徴を生かした作品や細かな部分まで丁寧に仕上げた完成度の高い作品が多く見られた。
- 同じ版を画面の中で繰り返す新たな表現が見られた。
- 刷りでの色の重なりやグラデーションなど、色の工夫が見られた。
- 木版・凹版の彫りは密度や方向、白黒のバランスの工夫をする。刷りは、インクの濃さで完成度が異なるため、インクの色がしっかり定着したもの、刷りに対して意識をもって取り組ませてほしい。作品の余白に汚れがある作品も見られた。
- 写真をそのまま利用したような作品が見られた。写実的な表現にとらわれず、のびのびとした作品づくりをしてほしい。
- 版画は完成が反転するので、文字などを彫り込む際に完成を予想して作品づくりができるとよい。

III デザイン

- 色面構成や構成美の要素を活用した平面構成や絵文字・イラスト・ポスターなど発想豊かな作品でジャンルが増えている。
- 丁寧な彩色、細かな描写の作品や表現技法を工夫した多種の作品が見られた。
- 中学校は授業時数の関係で規格を小さいものにしてもよいのではないかと感じた。

IV 全般を通して（「ひおきの部」を含む。）

- 「ひおきの部」では、新たな文化的行事や風景などをテーマにした郷土に対する誇りが感じられる作品が多く見られた。
- 文化的行事やひおきを代表する風景以外に、日常生活の中で感じたひおきの良さを素直に表現できる作品が見られた。
- 日置の産業に関する作品も見られた。
- 日頃から描きたい絵の題材を探す習慣を身に付けてほしい。
- 日置の特徴がテーマにされた作品が多く出品されることを期待したい。

《書道の部》

今回は、総数で 992 点の出品がありました。内訳は硬筆 324 点、半紙 578 点、八つ切 79 点、条幅 11 点の出品で、昨年より 80 点ほど作品が増加し、少子化の進む中で、各学校の取組の成果が出ているのは大変喜ばしいことです。授業での作品や書き初めなどから多くの出品して頂いたことに感謝申し上げます。文字を打つことが増える中、文字を書くことがとても重要視されています。書き初めなどの日本の伝統行事を通して文字を書くことへの関心を高めることが大切になります。

1 硬 筆

小学 1・2 年生の硬筆については、手本をよく見て、丁寧に書かれた落ち着きのある明るい作品が多くみられ好感が持てました。マス目に対する文字の大きさや左右への偏りなどに配慮した作品が多くみられ、好印象を受けました。

文字数が多く最後まで集中して書くには根気が必要です。これから課題として、文字の形の取り方やはね・はらいなど、基本的な書き方に注意が必要です。また氏名と本文のバランスにも配慮した書き方やマスの大きさに配慮した作品作りを望みます。

筆記用具や下敷きも作品を書くときに気を付けて使用してほしいです。鉛筆の濃さや太さに配慮し、消しゴムも適切に使用する必要があります。書き終えた後本文を見直すなど、最後に確認をしてほしいと思いました。

展示会場で直接作品を見て、全体の文字の大きさなど勉強してください。

2 毛 筆

上位の作品については、線が充実しており、字形もよく整い、練度の高さを感じました。特に学年が上がるにつれて完成度の高い作品が多く見られました。

これから課題として、作品の題材（言葉）選びを考えてほしいと思いました。教科書で学ぶ課題もいいのですが、この時期にあった題材（言葉）なども練習してみてはどうかと思いました。いろいろな言葉が出てくると、見る側も楽しく鑑賞できます。

名前の入れ方に注意してほしい作品がありました。本文に対して小さすぎるものがあり

残念でした。その逆もそうです。作品は名前まで入れて完成です。そして、文字が紙からはみ出している作品や、紙の上部に文字が偏っているものも見受けられました。どんなに一生懸命書いてても、作品としてはまとまりに欠けます。適切な大きさはどんなものか、入賞した作品を鑑賞して、バランスなどを学んでほしいと思います。また日頃から一点一画丁寧に心をこめた文字を書く機会を多く作ることにも心がけましょう。

全体として出品数が増えたことは大変喜ばしいことあります。ＩＣＴの活用により、文字を書く機会が減るなか、手書きのよさを改めて知る機会ともなりますので、楽しく文字を書く機会を多く持ってほしいと思います。来年度も多数の出品があることを希望いたします。